■■■■無断複製・転載禁止■■■■

東大生産研 J X金属寄付ユニット 「人材確保・育成の産学協業」 テーマにシンポジウム開催

東京大学生産技術研究所の非鉄金属資源循環工学寄付研究部門（J X金属寄付ユニット）は8日、シンポジウム「国内製造業の人材確保・育成の課題と取り組み」非鉄金属製錬業界における産学協業の取り組み例紹介」を同研究所の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催した。J X金属寄付ユニットの

黒川晴正特任教授、J X金属の中村祐一郎常務執行役員、三菱マテリアルの松谷輝之製錬事業部長、住友金属鉱山の岡本秀征執行役員の4氏が講演を行った。J X金属寄付ユニットの岡部徹特任教授らと交えてパネルディスカッションも行った。

J X金属寄付ユニットの菅野智子特任教授は開会挨拶で「世界的な脱炭素化の加速や持続可能な社会の構築といった世界規模の社会課題の解決には新たなイノベーションと人材育成が不可欠。産業構造が大きく変化する中、企業が求める人材を大学がどう育てていくかを本日は非鉄製錬業界を事例に考えていきたい」と挨拶した。

黒川氏は講演で「非鉄製錬業界の人材確保の現状について「産官学いずれも非鉄製錬系技術者の枯渇の危機感は共有しており、各世代・階層で人材育成諸制

度が構築・運用されている。それでも大きな改善が実感できていないのが現状だと思つ」と指摘した上で「業界として知名度・イメージ向上のためのマーケティング戦略にも注力しているが、さらなる改善を図るため、本日の講演・パネルディスカッションで深掘りしてはどうか」と問題提起した。

中村氏はJ X金属寄付ユニットとJ X金属による非鉄産業の活性化を目的とした活動や非鉄業界の認知度向上の取り組みなどを紹介。松谷氏は京都大学大学院工学研究科との寄付講座の取り組みを紹介し、「本講座を通して教育を受けた学生が非鉄業界へと進み、この分野を発展させる人材となることを強く期待する」と述べた。

岡本氏は東北大学多元物質科学研究所との共同研究部門の研究成果や活動などを紹介した。